

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02165

研究課題名（和文）小学生時からケアを担ってきたヤングケアラーについての研究

研究課題名（英文）Research of young carers who have begun caring at a very young age

研究代表者

五十嵐 智子（澁谷智子）（Shibuya (Igarashi), Tomoko）

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：90637068

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：ヤングケアラーとは、慢性的な病気や障害、精神的な問題などを抱える家族のケアをしている18歳未満の子どもを指す。

本研究では、元ヤングケアラーと共に調査や執筆を行い、『ヤングケアラー わたしの語り 子どもや若者が経験した家族のケア・介護』（生活書院、2020年）、『ヤングケアラーってなんだろう』（ちくまプリマー新書、2022年）などの本を出版した。

また、聞こえない親を持つ聞こえる子ども（CODA）についても、コーダと共にワークショップやインタビューを行い、『コーダ 私たちの多様な語り 聞こえない親と聞こえる子どもとまわりの人々』（生活書院、2024年）を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもとして家族のケアを担うことが、どのような背景や社会状況、価値規範の下に行われてきたのか、その影響が個々の子どもや家族にどのように経験されているのか、国や自治体が行ったヤングケアラー実態調査、元ヤングケアラーやスクールソーシャルワーカーなどへの聞き取りに基づいて、わかりやすく説明したことにより、教育や福祉や医療の専門職、行政関係者、メディア関係者などのヤングケアラー理解が広まり、従来の家族像を基にした制度と現実のズレを解消していく動きとなった。2024年6月には、改正子ども・若者育成支援推進法の中で、ヤングケアラーは自治体が支援に努めるべき対象として明文化され、関係機関への通達もなされた。

研究成果の概要（英文）：Young carers are children aged below 18 years who are taking care of the members of their families who have an illness or disabilities. This research focused on children who had begun caring at a very young age. Tomoko Shibuya has written books and papers focusing on former young carers and CODAs (children of deaf adults) by drawing on workshops and interviews conducted between 2020 and 2023. The book, Young Carers, My Story: The Care for Family Members Experienced by Children and Young People and papers like "Isolation and Loneliness of Young Carers: How to Develop Accessible Support for Them?" published in the Journal of Urban Social Studies in 2024 were broadly read by policymakers and specialists in education, welfare, and health. They were consulted during the amendment process of the Law of Supporting the Development of Children and Young People in June 2024, which identified young carers as those in need of support by the national government and local authorities.

研究分野：社会学

キーワード：ヤングケアラー コーダ 若者ケアラー 子ども支援 家族支援

1. 研究開始当初の背景

ヤングケアラーとは、慢性的な病気や障害、精神的な問題などを抱える家族のケアをしている18歳未満の子どもを指す。家族が長期的な看護や介護や見守りやサポートなどを必要とし、それを支える人手が充分にない時には、未成年の子どもであっても、本来なら大人が担うような責任を負い、状況を判断しながら家族の世話をする立場に置かれる。

しかし、本研究を開始した2020年4月時点では、日本ではヤングケアラーに焦点を当てた統計的データもまだ存在していなかった(2020年7月に埼玉県で県内の全高校2年生を対象として初のヤングケアラー調査が行われ、その後、厚生労働省によって中学2年生と高校2年生を対象としたヤングケアラー実態調査が行われた)。2019年3月の参議院予算委員会では、厚生労働大臣や文部科学大臣がヤングケアラー支援に関する質疑応答を行ったが、厚生労働省と文部科学省の連携による支援の必要性は確認されても、具体的にどんな支援をどこでどう展開するのかまでは描けていない状況にあった。現実には支援を展開しようとする、ヤングケアラーの年齢による違いや、彼らがケアをしている相手の状況による違いにも配慮する必要があり、彼らがどんな負担を感じどんなニーズを持っているのかを、より具体的に把握することも大切になってくる。こうしたことをふまえ、本研究では、特に、ケアを負担するようになった時期が就学前～小学生だったヤングケアラーに焦点を当て、手厚いサポートが必要とされる子どもたちの状況を明らかにすることを目指した。

2. 研究の目的

本研究では、ケアをする相手の状況や家族構成によって個々のケア経験が違ってくことに注目し、親をケアした人、祖父母のケアをした人、きょうだいケアした人など、さまざまな元ヤングケアラーの協力を得ながら、多様なケア実態を描き出すことに努めた。

また、子どもや若者向けにヤングケアラーについて解説する本の開発を目指した。ヤングケアラーとは何か、どうサポートを得ていけるのかを知ることは、ケアを担う子どもにとって重要な情報であるが、子どもの場合、大人向けに書かれた長い文章を理解することにはしばしば困難が伴う。本研究では、まずは、イギリスでヤングケアラー研究を牽引してきたラフバラ大学ヤングケアラー研究グループの所長、ジョー・オールドリッジ教授が2019年に子ども向けに書いた絵本、*Can I Tell You About Being a Young Carer?*を日本語に翻訳して広く紹介することにした(この本は、7歳以上の子を対象として書かれた本であり、多発性硬化症とうつ症状がある母をケアする12歳のヤングケアラーの女の子を主人公として書かれている)。

さらに、本研究では、言語とコミュニケーションの問題も意識してヤングケアラーを論じる一環として、聞こえない親をもつ聞こえる子どもたち(CODA: Children Of Deaf Adults)の経験にも焦点を当てた。病院での通訳など、大人を想定した会話を子どもが通訳をすることがどういう意味を持つのか、どのような工夫でそうした状況を減らすことができるのか、コーダの語りを分析することを通して、今後日本で増えていくと思われる外国人の子どもたちも視野に入れ、ヤングケアラーが担っているケアの考察を目指した。

3. 研究の方法

コーダに関しては、自らもコーダである中津真美氏、安東明珠花氏、遠藤しおみ氏、曾田純平氏と共に、両親や家族について(家族構成と家族の聞こえの状態)、「コーダ」という言葉を知った経緯、知ったことで何が変わったか(自分自身、親・きょうだい・親戚、周囲(手話通訳者・友人・先生・他のコーダ))、コミュニケーションはどうだったか(家の中、手話をどう見るか、通信や連絡の取り合い方(両親とどうやって連絡を取るか、手話通訳者など)を主な質問項目として、20代から60代まで、性別や地域もさまざまなコーダへのインタビューを行った。2022～2023年度にかけては、10回のコーダワークショップを行い、「大学ってどんなところ?」「親とのコミュニケーション、どうしてる?」「一人暮らしはしてみたい?」「手話通訳者ってどういう存在?」「コーダにとっての恋愛・結婚」「ろう者やコーダの歴史」「コーダの経験を読むこと書くこと」「聞こえる・聞こえないを意識するとき」「大学における情報サポート」などをテーマに、10代から50代までのコーダで話し合った。

ヤングケアラーについては、イギリスの先行研究を読み、イギリスのヤングケアラー支援団体であるChildren's SocietyやCarers Trust、Winchester Young Carersが開発した支援ツールなどを翻訳した。2022年度にはイギリスに行き、Children's SocietyのHelen Leadbitter氏やCarers TrustのDaniel Phelps氏、Winchester Young Carersのスタッフと会って情報交換をし、コロナ禍がイギリスのヤングケアラー支援に及ぼした影響などに関する情報を収集した。*Can I Tell You About Being a Young Carer?*の著者のJo Aldridge氏ともオンラインで話し合い、絵本の文章の細かい意味合いなどを確認した。日本でも、元ヤングケアラーたちと、そ

それぞれのケアの経験、どんなケアをしてどんな気持ちを抱いてきたか、ケアを要する家族との関係、ケアをしていた当時の同居家族との関係、病気や障害を家族がどう捉えていたか、子ども時代に自分は誰から影響を受けてきたのか、「ヤングケアラー」という言葉を知った経緯とその時の思い、ケアの対象が違っていても共感できるのはどんな点か、ケアの経験が自分に影響を及ぼしたと感じる場面、誰に何をどこまで話すか、今後の人生プランをどう捉えているか、などを話し合った。さらに、医療に関わる経験、学校での孤立に関わる経験など、より焦点化したインタビューを複数行った。

4. 研究成果

2020年度は、日本の元ヤングケアラー7人と共にヤングケアラーのケア経験について執筆し、『ヤングケアラー わたしの語り 子どもや若者が経験した家族のケア・介護』（2020年、生活書院）として出版した。執筆者7人は、ケアをした相手も、母、祖母、父、妹とそれぞれで、その状況も、難病、認知症、知的障害、聴覚障害、精神疾患、高次脳機能障害と、さまざまだった。ケアが始まった時の年齢についても、物心がついた時には生活の一部としてケアをしていた人もいれば、ある程度の年齢になってから、家族が病気を発症したことでケアを担うようになっていった人もいた。ケアをしていた家族が亡くなるなどして、ケアが終わった人もいれば、まだケアが続いている人もいた。2020年度はコロナの感染拡大のためにさまざまな社会活動が制限されていた年であり、そうした中で、執筆者と原稿を送り合い、推敲し、執筆者全員でオンラインミーティングをして、タイトルや帯に使う言葉、表紙などを決めていったプロセスは、コロナ禍とケアを考えるものともなった。こうして出版された本書は、ヤングケアラーに関心を持つ教育や福祉や医療の関係者、行政関係者、メディア関係者に多く読まれ、地方自治体や国のヤングケアラー支援が検討されていく時の参考資料となった。

国際的には、大学院生の長谷川拓人氏と共に、第3回ヤングケアラー国際会議（2021年、オンライン開催）において、年齢が幼く家事ができないヤングケアラーについて発表した。

学校でヤングケアラーをサポートする仕組みについては、第93回日本社会学会大会で「学校におけるヤングケアラー支援の可能性 イギリスの「ヤングケアラーサポート学校賞」の取り組みから」を発表し、2021年2月の一般社団法人日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト主催のシンポジウム「学校におけるヤングケアラー支援」でも、イギリスで行われている支援の形を紹介した。ヤングケアラーかもしれない子どもについて知り、学校全体での対応方法やサポートや支援担当の実働チームを明確にして、そのことを教員や生徒や保護者にわかるように伝えること、ヤングケアラーや家族からの意見を集めて支援の改善に役立てるプロセスなどについて論じ、さらに、「イギリスの「学校でのヤングケアラー」プログラムを日本語に翻訳して、「ヤングケアラー支援のページ」(<https://youngcarer.sakura.ne.jp/information8.html>)で公開した。

学校の授業の中でヤングケアラーについて教える方法も開発し、その一例として、「メンタルに不調を感じる親を持つ子どもへの支援」をテーマとしたヤングケアラー学習教材動画を作成した。成蹊大学の「コミュニティ演習」の授業を履修した学生たちと共に、元ヤングケアラー、家族会、ソーシャルワーカー、精神科医、ジャーナリスト、民生委員などにお話を伺い、学生たちが学習した内容を中高生に向けて自分たちの言葉で説明する「大学生と考える「ヤングケアラー」」（2021年）という動画を作成した。そのDVDは、研究協力者や教育関係者、ヤングケアラー支援者に送付し、実際に活用して頂いた。また、小学校高学年を対象としてヤングケアラーについて知ってもらうために、イギリスで行われていた寸劇を参考にシナリオを作成した。その寸劇では、お母さんと弟のケアをしている12歳のヤングケアラーを主人公とし、その子の学校や家庭での生活、抱えている気持ち、学校の先生や支援につながって負担が減っていく様子などをストーリーとした。この寸劇は、埼玉県教育委員会が実施しているヤングケアラーサポートクラスの小学校向けの授業などで実際に上演され、現在も使われている。2022年に久喜市立栗橋南小学校で5年生と6年生を対象に行った寸劇を授業の様子は、NHK首都圏ニュースや東京新聞で報道され、小学生等にヤングケアラーについて教える授業を作る際の参考モデルとなった。

中高生に向けては、元ヤングケアラーの高橋唯氏と共に、『ヤングケアラーってなんだろう』（ちくまプリマー新書、2022年）を出版した。第1章ではヤングケアラーが注目されるようになった今日の社会背景、第2章ではヤングケアラー実態調査からわかることなどを、中高生向けにわかりやすい文章で解説し、第3章は、高次脳機能障害の母のケアをしてきた20代の高橋唯氏にヤングケアラーの経験を書いて頂いた。第4章では、スクールソーシャルワーカーへの聞き取りに基づいて、学校での支援がどう展開していくのかを中高生が具体的に思い描けるように説明した。原稿は、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、精神科医、臨床心理士、社会福祉協議会職員、ケアマネジャー、主任児童委員などに確認して頂いた。小学生向けには、大学院生の長谷川拓人氏と共に、イギリスの絵本Can I Tell You About Being a Young Carer?を日本語に翻訳して、『ヤングケアラーってどういうこと?』（生活書院、2022年）として刊行した。12

歳の主人公が、ソーシャルワーカーや他のヤングケアラーやヤングケアラープロジェクトのスタッフと出会い、ケアの経験を話すことを通して、自分の状況を整理していく様子、ヤングケアラーというだけではない自分についての思い、自分の将来に向けてどのようにしていきたいと思っているか、というストーリーの最後には、著者のジョー・オールドリッジ氏の承諾の下、日本のヤングケアラーに関する情報も記載した。

医療や福祉の専門職に対しては、『障害者問題研究』や『精神科看護』、『看護』といった雑誌で、ヤングケアラーと、ヤングケアラーにケアされる家族との関係性を丁寧に描き出し、ヤングケアラーを支援しようとする人たちのまなざしがケアを必要とする家族に肩身の狭い思いをさせかねないこと、家族丸ごとを支援していくことの重要性、家族だけでなく医療福祉職も含めた大人の忙しさがヤングケアラーを大人扱いしてケアをさせてしまうことにつながっている状況を論じた。

ヤングケアラーに関しては、国や自治体も調査研究や支援体制の構築を進めており、報告者も、厚生労働省やこども家庭庁の子ども・子育て支援推進調査研究事業のヤングケアラー関連の調査研究で検討委員を務めたり、埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議、東京都政策企画局、武蔵野市子どもの権利に関する条例検討委員会などに関わったり、教員、スクールソーシャルワーカー、心理職、医療の専門職、行政職員、民生委員児童委員の方々などに向けたヤングケアラー研修会や講演を数多く行ったりした。ヤングケアラー支援をめぐる状況があまりにも早く動いていく中で、進展の予想外の早さからもたらされた研究計画の見直しに迫られ、2022年度の予算の残りを2023年度に繰り越したが、そのことで、さらにその先を見据えた研究を展開することが可能になった。

法律の専門職に対しては、雑誌『更生保護』において、ケアの状況が重く家族間の対立や暴力といった面にも巻き込まれるヤングケアラーについて取り上げた。さらに、社会の構造として、子どもがケアを担わざるを得ない状況がどのようにもたらされているかにも切り込み、『中央公論』『都市社会研究』『一般社団法人 日本臨床心理士会雑誌』などの雑誌で、これまでの日本社会が前提としてきた“家族”はいつの時代のどんな像を基にしているか、それは現実とどう違うのかを認識しないと、結局子どもがそのしわ寄せを引き受けることになることを論じた。世帯人数や親戚の減少、共働き化、少子高齢化によって家族の形が変わってきている中で、長期的な視点で家族の領域や働き方を見直す大切さを指摘した。

聞こえない親を持つ聞こえる子ども(CODA)についても、コーダたちと共に行なってきたワークショップやインタビューを基に、『コーダ 私たちの多様な語り 聞こえない親と聞こえる子どもとまわりの人々』(生活書院、2024年)を出版した。この本では、年齢も性別も住んでいる地域も違う6人のコーダが、学校生活、部活、就活、きょうだい関係、親とのコミュニケーション、「聞こえない世界」と「聞こえる世界」の両方を意識して生きるということ、「コーダ」という言葉、他のコーダとの出会い、手話の学習、親の介護と看取りなど、さまざまな切り口から書いている。それぞれの人が、聞こえない親との時間をどう過ごし、その後の人生経験を経てその解釈がどう変化してきたのか、具体的に立ち現れてくる様を明らかにした本書は、社会状況や知識が個人に影響し、さらに個人の発信が社会に与えていく影響について、そのプロセスやストーリーも含めて提示した研究成果となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Kanehara Akiko, Morishima Ryo, Takahashi Yusuke, Kumakura Yousuke, Yagishita Sho, Morita Masaya, Morita Kentaro, Nishida Atsushi, Koike Shinsuke, Shibuya Tomoko, Joseph Stephen, Kasai Kiyotoなど	4. 巻 1
2. 論文標題 Young carers in Japan: Reliability and validity testing of the BBC/University of Nottingham young carers survey questionnaire and prevalence estimation in 5000 adolescents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pcn5.46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 74(6)
2. 論文標題 ヤングケアラーへの支援の課題 大人の「忙しさ」の隙間を埋める子どもたち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 70-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 73(2)
2. 論文標題 上野加代子著, 『虐待リスクー構築される子育て標準家族』(生活書院、2022年)書評	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 179-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子・村上靖彦	4. 巻 2022年11月号
2. 論文標題 言いようもない“逃れがたさ”のなかで 「ヤングケアラー」という言葉に出会うということ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 8-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 48(7)
2. 論文標題 「ヤングケアラー」という視点をもった支援へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科看護	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 49(2)
2. 論文標題 ヤングケアラーとその家族 日本の現状と1990年代イギリスで起きた議論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害者問題研究	6. 最初と最後の頁 58-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 31
2. 論文標題 求められるヤングケアラーへの支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 まちと暮らし研究	6. 最初と最後の頁 18~26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 235
2. 論文標題 ヤングケアラーの調査と支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊ガバナンス	6. 最初と最後の頁 32~34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 112
2. 論文標題 ヤングケアラーの実態と支援の方向性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 24～28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 32巻1号
2. 論文標題 ヤングケアラー 家族ケアを前提とした制度を見直す	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 一般社団法人 日本臨床心理士会雑誌95	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 137巻10号
2. 論文標題 ヤングケアラー対策でなお残る課題 「時間の再編」に対応した正規労働の改革を	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 44-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 第74巻第11号
2. 論文標題 負担の大きいヤングケアラーについて考える そのプレッシャーに子どもは耐えられるのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 更生保護	6. 最初と最後の頁 13-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷智子	4. 巻 16
2. 論文標題 ヤングケアラーの孤独・孤立 アクセスしやすいサポートをいかに作るか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 都市社会研究	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 菅江佳子・安永千里・朝日華子・澁谷智子
2. 発表標題 ヤングケアラー支援におけるスクールソーシャルワーカーの役割を考える
3. 学会等名 日本学校ソーシャルワーク学会第16回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁谷智子
2. 発表標題 ヤングケアラー
3. 学会等名 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム 東京大学 職域・地域架橋型 価値に基づく支援者養成TICPOC(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠井さつき・富樫公一・熊倉陽介・澁谷智子・鈴木菜実子
2. 発表標題 研究報告におけるクライアント・インタビュイーの同意を得ることについて Who benefits from it?の問いを立てる
3. 学会等名 日本心理臨床学会第41回大会Web大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁谷智子・中津真美・安東明珠花・遠藤しおり・會田純平・滝島真優
2. 発表標題 さまざまな年代のコーダの経験に目を向ける
3. 学会等名 学術変革領域領域会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁谷智子
2. 発表標題 ヤングケアラーの選択肢を広げる
3. 学会等名 東京大学大学院教育学研究科附属心理教育相談室第18回公開講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁谷智子
2. 発表標題 ヤングケアラー支援の課題 前提とする「家族」イメージは現状に合っているのか
3. 学会等名 学術変革領域領域会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長谷川拓人・澁谷智子
2. 発表標題 学校におけるヤングケアラー支援の可能性 イギリスの「ヤングケアラーサポート学校賞」の取り組みから
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澁谷智子
2. 発表標題 バイモータル・バイリンガリズム
3. 学会等名 学術変革領域領域会議
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 澁谷智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 144
3. 書名 ヤングケアラーってなんだろう	

1. 著者名 笠井さつき、笠井清登、松木邦裕、若佐美奈子、堀越勝、毛利伊吹、濱田純子、金生由紀子、澁谷智子ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 女性のこころの臨床を学ぶ・語る	

1. 著者名 ジョー・オールドリッジ、ジャック・オールドリッジ・ディーコン、澁谷智子、長谷川拓人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 64
3. 書名 ヤングケアラーってどういうこと？	

1. 著者名 成蹊大学文学部学会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 370
3. 書名 意味をすくいあげて	

1. 著者名 澁谷智子、宮崎成悟、高橋 唯、沖 侑香里、秋保秀樹、遠藤しおみ、名倉美衣子、高岡里衣	4. 発行年 2020年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 216
3. 書名 ヤングケアラー わたしの語り	

1. 著者名 澁谷智子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 生活書院	5. 総ページ数 198
3. 書名 コーダ 私たちの多様な語り 聞こえない親と聞こえる子どもとまわりの人々	

1. 著者名 石井綾華・澁谷智子・鶴田信子 / 笠井さつき (司会) (笠井清登・熊谷晋一郎・宮本有紀・東畑開人・熊倉陽介編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 300
3. 書名 こころの支援と社会モデル：トラウマインフォームドケア・組織改革・共同創造	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ヤングケアラー支援のページ
<https://youngcarer.sakura.ne.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------